

高等学校数学科における

「行間を読む・補う」という学習方略・態度の指導

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

中條 俊希

本研究では、問題の模範解答の省略を補う、自身の式変形の根拠を意識するなど、「行間を読む・補う」活動の実態を調査・分析し、その結果を基に、生徒の解答レベルに応じた指導を検討・実践した。

調査1・2では、自身の解答のふりかえりにおいて、解答中の式変形の根拠をどれほど明示できるか、また調査3では、模範解答における説明の省略に気づき、その省略を補うことができるかどうか、生徒の実態を把握することが目的であった。調査1・2では、根拠となる記述のレベルや誤答の傾向を分析し、行間を意識して式変形をしている生徒が少ない実態が明らかになった。調査3では、課題形式の記述調査を行い、デモンストレーションによって説明の省略に気づく視点が生まれ、より高いレベルの記述を補うことが可能となることが分かった。

また、調査1・2と、授業実践における生徒の記述との比較から、習慣的な課題と、「行間を読む・補う」態度の例示をする教授方略が、教科書を辿って解答の行間を正確に補おうとする態度の基盤形成に活かされることも明らかとなった。